

～ 女性蔑視発言が男女平等を考えるきっかけに ～

女性蔑視発言についてのニュースが日本のみならず世界中に広がった。本人は謝罪会見で「決して女性蔑視の意図があったわけではない」と話していたが、意図していたならばそれこそ許されぬこと。無意識に発言してしまったことが大きな問題になっていることを理解できていない。謝罪会見をしたことでこの問題に決着をつけたかったようだがそう甘くはなかった。世界中から寄せられた女性たちのコメントが報道され、「わきまえている女」に対抗する「わきまえない女」の投稿も殺到したとのこと。わきまえることに対して、インタビューされた50代男性が「男性は出世しなければいけないから」と言っていたのが妙に印象に残った。わきまえている人たち（男女）に囲まれたうえ、自身の発言に対して注意もしてもらえなかった80代の男性に、これは問題発言だと理解を求めるのは想像できないほど困難なことなのだろうと思った。しかし、この騒動は男女平等について考えるきっかけとなり、世の中に問題を投げかけ、多様な意見を引き出すことになったのは間違いないことだと思う。

10数年前に時の厚生労働大臣が女性を「産む機械」と発言したことを思い出した。女性たちの事情や都合を全く理解しない暴言としか思えなかった。残念ながら私の職場には「間違ったことは言っていないだろう」と豪語する男性上司がいたものだ。



(森)



弘前市女性活躍推進企業認定制度のご案内

弘前市では、女性の活躍を推進するため女性の雇用環境の改善に向けた自主的な取組を実施している企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。女性の雇用環境を改善させることは、企業全体の成長、企業イメージの向上につながるといわれていますので、是非、弘前市女性活躍推進企業に申請していただきますようお願いいたします。

申請方法や認定制度の詳細につきましては、市のホームページをご覧ください。

認定制度に関する情報は
こちらから



○弘前市女性活躍推進企業のメリット

- ① 認定制度を支援している金融機関の融資制度の金利引き下げ
- ② 総合評価落札方式による入札の際、技術評価点として加点
- ③ 県や市で開催する女性活躍に関する研修等のご案内
- ④ 市ホームページにおいて取組内容等の掲載

ボランティア編集委員の編集後記

もう年度末、令和2年度は新型コロナウイルス感染症が“スローライフ”のことばの響きを悪くした。若い先短い1年は大切な1年、勿体ない。来年度は新型コロナウイルス感染症とうまく付き合って楽しもう。梅

2000年を機に永年勤務した職場を離れ別の場所で生きてみようと思った。周りには男女共同参画に取り組む元気な女性たちがいて刺激的だった。意識の高い頑張る女性たちにエールを送りたい。森

春を告げる福寿草が咲き始めたというニュースを聞き、早速鑑賞してきました。遠出はできないけれど近場でも胸がわくわくさせてくれました。今年こそは日本一の弘前の桜を堪能したいな。のん

※参画だよりは3名の市民ボランティア編集員にご協力をいただいて発行しています。

■編集発行

弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 〒036-8551 弘前市大字上白銀町1番地1
電話：0172-26-6349(直通) FAX：0172-35-7956 E-MAIL：kikaku@city.hirosaki.lg.jp



参画だより

No.71
令和3年3月発行
弘前市企画部企画課

“弘前市パートナーシップ宣誓制度”が始まりました

弘前市では、すべての人が互いに人権を尊重しながら責任を分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を十分発揮することができる社会の実現に向け、様々な取組を実施しています。

近年、性的マイノリティの人たちについての理解促進を図るための取組を進めており、様式の性別欄の見直しや市職員研修、市民向けセミナーを開催してきました。更なる取組として双方又は一方が性的マイノリティのお二人が、お互いをパートナーとして、日常生活において相互に支え合い、協力し合うことを約束して「パートナーシップ宣誓」を行い、その宣誓を市が証明する「弘前市パートナーシップ宣誓制度」を令和2年12月10日から開始しました。

宣誓することで何らかの法律上の効果が生じるものではありませんが、悩みや生きづらさを感じている人たちの不安な思いを、少しでも軽減・解消できるよう取り組むもので、この制度導入を契機に、性的マイノリティの人をはじめ、困難な状況に置かれている人への理解と共感が広がり、多様性を尊重するまちづくりが推進されるよう努めていきます。

パートナーシップ宣誓の対象となる要件や必要書類、手続き方法などの詳細については、市のホームページをご覧ください。

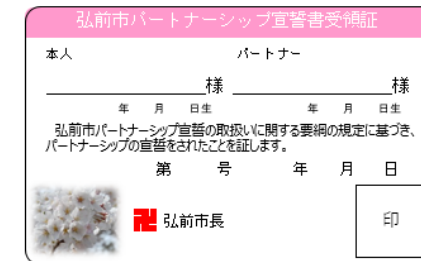
制度の詳細は
こちらから



Q パートナーシップ宣誓をするとどうなるの？

A パートナーシップ宣誓を行った証明として、お二人に「パートナーシップ宣誓書受領証」を交付します。婚姻届を出した時のように配偶者となったり、扶養義務や相続権などの法律上の義務や権利が発生することはありませんが、市の一部の手続きやサービス等が活用可能となります。

また、一定の要件を満たしていれば受領証を提示することで携帯電話の家族割引サービスや生命保険の受取人指定、住宅ローンでの手続きの簡略化など対応している民間の事業者があります。今後、様々な民間事業者等の方々に制度の主旨をご理解いただき、宣誓された方が対象となるサービスや手続きの簡略化など対応していただけるよう、市としても周知していきます。



Q 性的マイノリティ、LGBTってなに？

A 性的マイノリティは「性的指向(どのような性別の人を好きになるか)が必ずしも異性愛のみではない人、または性自認(自分の性別をどのように認識しているか)が出生時に割り当てられた性別と異なる人」と制度の中で定義しています。性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)は頭文字をとってSOGIと呼ばれ、すべての人が持っている属性を表す言葉として使われています。

LGBTは性的マイノリティの人たちの総称のひとつで、Lesbian(同性を好きになる女性)、Gay(同性を好きになる男性)、Bisexual(同性も異性も好きになる人)、Transgender(生まれた時に割り当てられた性別と認識する性別が違う人)の頭文字をとった言葉で、LGBTは性的指向、Tは性自認を表していますが、それだけにあてはまらない様々な性のあり方が存在します。

女性活躍のための地域中小企業技術力体感プログラム

あらゆる分野で女性の活躍を推進し、若年女性の地元定着を図るため、特に女性比率が少ないとされる理工系分野に着目した事業を実施しています。中学生や高校生が、高い技術力で事業を行う地域の企業を訪問して事業を体験し、従業員の方との交流を通じて地域で働くことについて学び、考えました。

○第1回目(令和2年12月24日(木)) マルマンコンピュータサービス株式会社

医療系システムの開発、販売、保守を行う同社を中学生4名が訪れ、製品のデモンストレーションや従業員の方から仕事の流れなどを伺いました。後半は新事業企画のワークショップで、これからの世の中に役立つ製品の企画を考えました。



将来の夢がプログラマーなので、プログラマーの話が聞けてよかったです。



○第2回目(令和3年1月12日(火)) 光城精工株式会社

中学生6名が、電子機器の製造、販売を行う同社を訪れ、工場見学や製品ができるまでの過程などを学びました。同社で製造されている機器を用いた「音の聴き比べ」では、品質・技術力の高さを体感しました。

話を聞いて、自分の人生においての様々な出会いや経験が、この先必ずどこかで生きてくるのを感じることができました。



○第3回目(令和3年1月16日(土)) 株式会社ラグノオささき

高校生5名、中学生3名が同社相馬工場を訪れ、製造工程を見学したあと、賞味期限と消費期限の違いを学び、賞味期限の分析体験を通じて、慣れ親しんだ製品の品質管理に驚いていました。



安全面の徹底に感動しました。工場見学を通して、安全・安心の商品を作ってくれていることがわかり、日々の食事のありがたさがわいてきました。



ひとにやさしい社会推進セミナー

誰もが安全・安心に暮らせるまちづくりについて -レインボーファミリーの視点から-

令和3年1月27日に、今年度第2回目となる標記セミナーをヒロロで開催しました。弘前市パートナーシップ宣誓制度がスタートしたことにあわせ、性的マイノリティの人たちのカップルや家族(レインボーファミリー)の視点から、弘前大学男女共同参画推進室助教の山下梓さんにお話いただきました。まず、性のあり方は性自認・性的指向・性・性別表現の要素からなり、ひとりひとり異なるもので多様であることなど、基礎的な部分について説明いただきました。

その後“家族”にも様々な形があり、同性どうしの家族やLGBT等の方が親である家族の方たちがいらっしゃることも、また生活の中で“家族が関わるとき”を考えていくことで、レインボーファミリーを感じる困難な場面について、裁判での判決なども交えてお話いただきました。参加者の皆さんからは多くの質問が寄せられ、その回答を共有することで、さらに理解を深めている様子でした。



きらめく人、ときめく心

☆今回のきらめく人 境 江利子さん

第4回目は、スマートフットワーク代表、あんよセラピー主宰、フットケアセラピストとして足からの健康を伝える仕事をしながら、ひろさき健幸増進リーダーや親子体操普及員など多方面で活躍している境江利子さんです。



○持ち前の「人を引き寄せる? 巻き込む、パワーを与えてくれる魅力」

コロナ禍にあっても何か出来ることはあるはずと本業のスキルと人脈を活かし、吉幾三さんのラップ調の曲「TSUGARU〜コロナに負けるな! パーティション〜」に合わせて短時間で全身運動ができる体操「楽しい簡単体操」を考案しました。

境さんらしく、友人・知人を巻き込んだ動画を作成し、YouTubeやSNSで発信しています。弘前市民だけではなく県民全体の健康を願い、他市町村をも巻き込み、コロナに負けずに頑張ろう! と元気パワーを与えてくれている境さん、男女共同参画にも役立てる人材でありたいと仰っていました。

○パワーの源は笑顔

境さんはPTA活動での経験を活かし、市民団体「ひろさきアフタースクール」の地域共育コーディネーターとしても活躍しています。「子ども達の笑顔のためには大人が笑顔でいること。」その

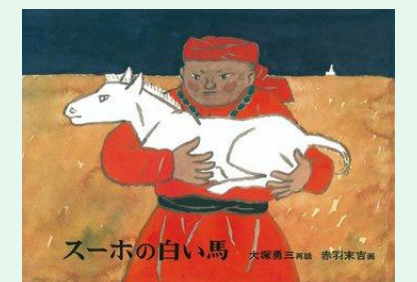


ために、自身のネットワークを活かして地域の企業や伝統文化を「放課後」という時間(社会教育・家庭教育)で親子に体験してもらおうプログラムを提供しています。その中でも毎年ヒロロで開催する大王づくりワークショップは大盛況だそうです。ここでもたくさんのボランティアスタッフを巻き込んで活動されていました。いつも私に元気パワーをくれる、笑顔が素敵で魅力的な方です。(のん)

わたしと本

スーホの白い馬

私は、小学校1・2年生に読み聞かせをするボランティアをしています。私のお気に入り「スーホの白い馬」。モンゴルの貧しい少年が悪い王に大切な白い馬を取られ、その馬が命懸けで少年の元へ戻るものの、追手に深手を負われ、血で真っ赤に染まりながら死んでしまい、少年はそのなきがらで馬頭琴という楽器を作るという話です。最近、ある月刊誌に、モンゴルを舞台にしたこの本について次のように書かれていました。「モンゴルは馬を大切にする国でこんな悪い王はいない、モンゴルを語る時は文化や社会とともに背景も含めて伝える必要がある」というもので、私はこれから子どもたちに「スーホの白い馬」をどのように語ろうか考えさせられました。児童文学で知られる「赤毛のアン」も、作者は子ども向けに書いたのではないとされています。本が書かれた時代背景や作者の意図を理解して子どもたちに伝えるのは難しいですね。(梅)



再話 大塚勇三
画 赤羽末吉
出版社 福音館書店